

小寺地域実質化された京カ農場プラン

市町村名	地域名 (該当集落名)		当初作成年月	更新年月
宮津市	栗田	小寺	令和5年3月	

1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	13.00 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	6.59 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	0.03 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.20 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

2 対象地区の課題

課題
<p>当地区は、過去には野菜と水稻の輪作体系に加え、花き類、イチゴ、山の芋、生姜、蔬菜採種などによる高い土地利用率の上に複合経営が営まれ市内の園芸作物の一大産地として栄えてきたが、経営者の高齢化と後継者不足により担い手は減少傾向にあり、また、従前より分散農地の相対での貸借が中心となっており、個人を中心とした営農で、近年の農機具の大型化や資材価格の高騰も相まって、担い手農家の経営は厳しさを増し、離農者の増加とともに耕作放棄地が拡大している。</p> <p>現在は、70歳代前半までの農家により農地の大部分が耕作され80歳以上の耕作者は10%未満であるが、今後5年間で耕作困難となる農家が増加する見込みであり、効率的かつ効果的な農地利用の推進や作業受委託の拡大とともに多様な担い手の確保や従事者の育成が課題となっている。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中核的担い手を中心に農地集約による農地利用の効率化を進める。
